

令和4年度第4回福島県原子力発電所の廃炉に関する安全確保県民会議に係る意見及び回答について

NO.	質問、意見等	回答
1	<p>【福島県中小企業団体中央会 事務局長 久保木光治】</p> <p>ALPS処理水希釈放出設備の測定確認用タンク水位の低下について                      先般報道されたタンクの水位低下に関しては、処理水放出が迫るこの時期において、県民の東電に対する不信感の増大させるもの以外の何物でもない。</p> <p>これまでも数知れない大小の様々な事故、トラブルが続いてきたが、東電社内、下請け企業等における危機意識をこれまで以上にしっかり徹底する必要がある。</p> <p>1 事案の隠蔽は論外であるが、今回現地調査での説明をお聞きしていると、「発生事案は重大なものではない。取り立てて大騒ぎするようなものではない。」という意識が見え隠れする。小さな事の積み重ねが大きな信頼関係の喪失につながることを認識が足りない。</p>	<p>【東京電力】</p> <p>○地域の皆さまに大変なご不安やご心配をおかけしている状況を踏まえ、一連の事案に係る取り組みの進捗状況について、適宜お伝えするよう努めております。</p> <p>○測定・確認用設備については、3月15日、原子力規制委員会から使用前検査終了証を受領し、3月17日から、タンクB群の循環・攪拌運転を開始しました。</p> <p>その後、循環・攪拌運転を行っていないタンクA群の一部タンク（A10タンク）で水位低下を確認したことから、速やかにタンクA群の出口弁を手動閉止しました。これにより、A10タンクの水位低下が止まったため、A10タンクの水位が低下した理由は、A10タンクの電動弁(MO弁)（2つ）にシートパス※があったことが原因と確定しました。シートパスが発生した原因は、当該電動弁のカップリングボルトの締め込み量が不十分であったと考えています。カップリングボルトの締め込み量が不十分だった原因は、当該電動弁の手動開操作を行った協力企業作業員が、弁カップリング部保護カバーの警告書きに記されている文言を、「赤色の野書き線が見えなくなるまで締め付ければ弁体側と電動機側の結合が十分だ」と勘違いしたことが原因と推定しています。</p> <p>再発防止対策として、電動弁の手動開操作する際に必要となるカップリングボルトの緩め・締め付けに係る施工要領書（手順書）を作成し、カップリングボルトの締め込み量の数値管理・記録管理等を行います。また、カップリングボルトに電動機側と弁体側の十分な結合が得られる箇所に野書き線を入れるとともに、警告書きの記載を見直します。</p> <p>○当社は、事業運営に対する信頼回復に努めるとともに、福島第一原子力発電所の廃炉を、安全確保を最優先に、一つひとつ着実に進め、事故の当事者としての責任を果たしてまいります。</p>
2	<p>【福島県中小企業団体中央会 事務局長 久保木光治】</p> <p>風評払拭について</p> <p>政府（首相）は春から夏にかけて予定されている処理水の海洋放出に前のめりになっている感があるが、一方で地元からは、国内外さらには地元漁業者、水産物加工業者等の理解醸成が進んでいるとは言えない状況であることから、スケジュールありきで進めることのないよう要望しているところである。報道によると、海洋放出に伴って、本県産品の輸入規制を強化する動きも出ている。</p> <p>今回の現地調査において、ヒラメ、アワビの海洋生物飼育試験施設を見学したが、風評を懸念している漁業者等の理解促進のためには、正にこの施設の取組みを更に強化して、漁業関係者等に実際に見てもらうことが最も重要な取組みではないかと思う。</p> <p>「安全と安心は違う、風評を作るのは漁業者ではなく消費者である」と言われるかも知れないが、そのためにも、こうした取組みをアクアマリンや築地市場等の協力を得て展示することが効果的ではないだろうか。管理区域外に処理水を持ち出すことは難しそうではあるが、廃炉に向けての重大な節目となる海洋放出であり、地元漁業者の理解なくしては後々に禍根を残すことから、国も国内外の理解促進のために特例的に認めることも必要ではないか。</p>	<p>【東京電力】</p> <p>○廃炉の一環であるALPS処理水の取扱いについて、風評影響を最大限抑制するべく、地元はもちろんのこと、広く国内外の皆さまにご理解をいただけるよう、当社としても、理解醸成に向けた取り組みを継続して進めていくことが重要と認識しております。</p> <p>まず、安全な設備の設置や運用などの計画に基づく安全確保や、放射性物質のモニタリング強化など、政府の基本方針を踏まえた取り組みを進めるとともに、福島県から求められている8項目の要求事項をはじめとして、各自治体の申し入れ等にもしっかりと応えてまいります。</p> <p>○海洋生物飼育試験の状況は、ご意見いただいた通り、漁業関係者をはじめとする地域のみなさまに見ていただくことも重要と認識しております。これまでも漁業関係者の方々には、現場の状況をしっかり把握したいとのご要望等から、順次ご視察いただいているところです。引き続き、実際に飼育をしている担当者との対話や、飼育現場のご案内など、継続して行ってまいります。また、飼育の状況は、飼育水槽のカメラによるリアルタイムでのWEB映像公開や、昨年3月17日からのヒラメの飼育練習開始に合わせて、当社ホームページに「海洋生物飼育日誌」を開設し、毎日（土日祝除く）情報発信を行っており、当社（東京電力ホールディングス株式会社）のtwitter公式アカウントでも同様に情報発信を行っております。</p> <p>○なお、管理区域外での展示につきましては、海洋生物飼育試験は、管理対象区域内での飼育環境であり、また海水で希釈したALPS処理水を用いた閉鎖循環式の飼育試験用水槽での飼育となることから、仰る通り、ご示唆いただいたような構外での展示は難しいと考えております。飼育試験は、これまで社外の専門家による専門的・技術的なサポートをいただきながら進めてきておりますが、今後も、さまざまな方々とコミュニケーションを重ねていく中で、国内外の理解促進に資するような連携などができるのであれば、検討してまいりたいと考えています。</p> <p>○このように、地元をはじめとする皆さまや広く社会の皆さまのご懸念を払拭し、ご理解を深めていただく取り組みを真摯に継続していくことが重要と考えております。また、福島第一原子力発電所の実際の現場、安全対策を目で観て、感じていただくことも、理解を深めていただくにあたって重要と考えております。引き続き、当事者として、情報発信や風評対策に全力で取り組んでまいります。</p>

NO.	質問、意見等	回答
3	<p>【福島県PTA連合会 平塚康晴】</p> <p>先日10日に日本PTA全国協議会の方々に視察頂きました。忙しい中、対応いただきありがとうございました。今後も今の現状と全国のPTAに見て頂きたいと考えておりますので、今後もよろしくをお願いいたします。</p>	<p>【東京電力】</p> <p>○福島第一原子力発電所のご視察にお越しいただきありがとうございました。引き続き、より多くの方々に福島第一の廃炉作業の現況やALPS処理水の海洋放出に向けた取り組みなどをご視察いただき、ご理解を深めていただけるよう努めてまいります。</p>
4	<p>【福島県PTA連合会 平塚康晴】</p> <p>図（資料2）のALPS処理水希釈放出の給水は外の海からですか。湾の外から給水であってますか。</p>	<p>【東京電力】</p> <p>○希釈用海水については、港湾外の海水を5,6号機取水路を経由して取水いたします。5,6号機側取水路の南側（1～4号機側）に仕切堤を設け、港湾内（1～4号機側）の海水の流入を抑制します。</p>